

# タイは私をなぜ虜にしたのか？

日本タイクラブ<第7回>公開フォーラム

# タムブン 庶民の願い



日・タイ修好130周年  
2017

「タムブン（功德を積む）」は、タイ社会を貫く最大の仏教的観念です。タイの人は、人間の幸不幸は自分が積んだブン（功德）の多寡によって決まると固く信じており、いい人生を送るには「タムブン」は欠かせない日常行為となっています。私たちの眼からすれば、彼らは「生きるためにタムブンする」のか「タムブンのために生きている」のかわからないと思うことさえあります。

とりわけ、これといった特権もない庶民にとって、「タムブン」は自分の意思で行なえる唯一の幸福実現の手段です。「善を行えば、善がやってくる」というだれにでもわかるこのシンプルな観念は、庶民の頭を占領し離れません。老若男女が自分のささやかな幸せを願い、「タムブン」を実践する姿にだれもが納得します。

「タムブン」は、庶民の日常生活の流れの中に生きているといえるでしょう。

なぜ、タイ社会ではこうも「タムブン」が普遍的なのでしょう。か。「タムブン」の実際的な行為としてはどんなことがあるのでしょうか。

タイから招いた仏僧を交えて、仏教に詳しいディスカッサントの間で、とことん「タムブン」について議論します。広く捉えれば、贈与論が関係するのではと思いますが、私たち日本人にとっても「タムブン」は大変関心がある課題です。皆さんと一緒に考えてみます。



## 【ディスカッサント】

プラマハー・ソムポップ・  
サンパオー・リーンハラッタナラック  
(テープシリントラーワート寺院僧侶)

高井康弘 (大谷大学教授)

馬場雄司 (京都文教大学教授)

村上忠良 (大阪大学教授)

## 【コーディネーター・趣旨説明】

赤木 攻 (日本タイクラブ代表)



日時：2017年**10月29日** [日] 13:45開会 (受付開始13:15)

場所：**佐治敬三メモリアルホール** (大阪大学中之島センター10階) 大阪市北区中之島4-3-53

京阪中之島線 中之島駅より 徒歩約5分・阪神本線 福島駅より 徒歩約9分・JR東西線 新福島駅より 徒歩約9分

JR環状線 福島駅より 徒歩約12分・地下鉄四つ橋線 肥後橋駅より 徒歩約10分・地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅より 徒歩約16分

参加費：2,000円 お土産あり

主催：日本タイクラブ

後援：テープシリントラーワート寺院、タイ王国大阪総領事館  
公益財団法人 日本タイ協会、龍谷大学 世界仏教文化研究センター  
国際ソロプチミスト 大阪ーりんくう



日本タイクラブ

# タイは私をなぜ虜にしたのか？

日本タイクラブ<第7回>公開フォーラム

# タムブン

## 庶民の願い

### 【フォーラム・ディスカッション・プロフィール】

プラマハー・ソムポップ・  
サンパオー・リーンハラッタナラック

テーブシリントラーワート寺院僧侶



1980年バンコク生まれ。2003年タマサート大学教養学部日本語学科卒業。卒業後、タイの日系企業で国際マーケティングスタッフ、通訳者、翻訳者として活躍。2008年、宝飾品店 De LINHA を開業する。

2011年、テーブシリントラーワート寺院で出家。2013年、タイ僧侶法試験1級とパーリ語試験1-2級合格。2014年、タイ僧侶法試験3級合格。2017年、パーリ語6級合格。

高井康弘 大谷大学教授



1980年に初めてタイを訪ねる。1985～87年、チェンマイ大学社会科学部留学。同期間に農村に住み、宗教儀礼・家族・生業等について社会学・人類学的調査をおこなう。

1990年より京都の大谷大学文学部社会学科教員。タイおよびラオスにほぼ毎年通い、地域社会変動、家畜飼養・流通、精霊儀礼など宗教実践に関する調査を続けている。

馬場雄司 京都文教大学教授



1980年代より中国雲南省のタイ族文化の研究を始め、のちチェンマイ大学社会科学部研究員(1990～1991)、以後、毎年、タイを訪れ、主として北部タイ農村において、開発が進む中での社会・文化の変化について調査を行う。また、アジアの音楽についても研究を行っており、近年は、タイ人の仲間とタイ北部の伝統音楽のグループを結成、演奏活動を行う。同朋大学、三重県立看護大学を経て現在、京都文教大学人間学部文化人類学科教授。

村上忠良 大阪大学教授



大阪外国語大学でタイ語とタイ地域研究を、筑波大学で文化人類学を学ぶ。1990～91年タイ南部で、1995～96年タイ北部で調査を行う。現在の研究テーマは、泰緬国境地域に居住するタイ系少数民族のシャン(タイヤイ)の仏教実践。大阪大学外国語学部タイ語専攻の専任教員。

赤木 攻 [コーディネーター・趣旨説明]

日本タイクラブ代表



大阪外国語大学でタイ語を学び、卒業後チュラーロンコーン大学に留学する。帰国後、母校で教鞭をとる。学長を経て2004年4月から大阪外国語大学名誉教授。専門はタイ地域研究。チュラーロンコーン大学、タマサート大学の客員講師、在タイ日本大使館専門調査員などを務める。「タイ事典」編集者。日本タイ学会元会長、泰国猛虎会日本代表。大阪観光大学学長。



細田ティン  
日本語補助



木本壽美恵 [総司会]  
日本タイクラブ筆頭副代表



### 【プログラム】

- 13:15 受付開始
- 13:45 開会・ラーマ9世プーミポン国王追悼
- 14:00 フォーラム・ディスカッション
- 16:30 閉会

### 【参加お申込み】

お申込みは、住所・氏名・電話番号 を添えて、メールまたはFAXで日本タイクラブ事務局までお願いします。  
なお、参加費は当日お支払いください。

(電子メール) nihonthaiclub@gmail.com

(FAX) 075-721-8427

### 【会場案内図】

